

GIGA びより



No.12
発行 2024.03

1 職員研修の紹介

10月に、1人1台端末を活用した授業改善研究の一環で外部講師招へい研修を実施しました。



ブログ

Sam's e-AT Lab



YouTube チャンネル
I74iamsam

障害による困難さを補うための手段としてのICT活用について
～重度・重複障害を含む肢体不自由児への活用を中心に～

講師 熊本高等専門学校 特命教授 福島 勇 氏

重度・重複障害と評価・診断されがちな子どもたち
常に介助を必要とする受動的な存在になってしまう

その結果

本人は学習性無力感を感じやすくなる
周囲の人は〇〇デキナイと評価し、あきらめてしまう

その結果

神の手



重度・重複障害を含む肢体不自由児への教育とは
子どもたちには...

身体を動かす上での不自由さがあって
受動的な存在になりがちだが
「〇〇したい」というココロは
不自由にさせない教育である
受動的な存在から能動的な存在に変える教育

そのために支援者が心がけることは

「障害があるから〇〇デキナイ」という
見方・捉え方ではなく

どう工夫したら〇〇デキルようになるか
どうやったら〇〇という活動に参加できるか

すなわち

デキルことを活かすという発想

外部講師招へい研修では、講師として熊本高等専門学校 福島 勇 特命教授をお迎えしました。福島さんは、福岡県の教員を退職されたのち、現職を務められており、全国の学校や放課後等児童デイサービスなどでICT機器等活用 of コンサルテーション（助言や支援活動）を行われています。研修では、重度・重複障害のある肢体不自由児への教育に携わる上で教師が心掛けておかなければならないことや、ICTやアシスティブテクノロジー（支援技術）の活用の視点や実践について、これまでのアメリカでの視察や経験などをもとにご講話いただきました。アシスティブテクノロジーについて初めて知った教員もあり、機器や環境を工夫することで児童生徒の「できる」を支えられることに関心を寄せていました。福島さんは、ブログや YouTube チャンネルでも情報を発信されています。

2 ロボットプログラミング選手権2023

12月8日に、ロボットプログラミング選手権2023九州地区大会が開催されました。この大会は、児童生徒がプログラムしたロボットを、土俵上で競わせるものです。今年度は、熊本県立黒石原支援学校を会場に、九州地区の参加校がオンラインで参加しました。本校からは、小学部中学部合同の2チーム（6プログラム）が参戦し、当日は全員で観戦しました。残念ながら2チームとも初戦敗退となりましたが、大会に向けた学習では、プログラムを試行錯誤して作り上げる姿が見られました。



3 授業紹介 小学部(肢体不自由重複学級) 4年生 「ふえたりへったり」(算数:小学部第2段階)

・単元目標と本時の目標

単元目標	知識及び技能	・数量の増減に着目し、具体物を操作して、増減の意味を理解する。
	思考力、判断力、表現力等	・増減の意味を具体的な事物や操作と関連づけて考えることができる。
	学びに向かう力、人間性等	・数量が増えたり、減ったりする事象に興味・関心を持ち、進んで変化の様子を捉えようとする。
本時の目標	・具体物を操作して増えたり、減ったりした数を数える。 ・増減の意味を考えることができる。 ・数量が増えたり、減ったりする変化の様子を捉え学習用端末で繰り返し答ええる。	

・1人1台端末等の活用の視点

1人1台端末(ICT)活用の視点

- (1) 視点1 教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりする
(2) 視点2 障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

学習目標を達成
するために…



- ・合併、増加の場面を、学習用端末を操作して答えられるようにする。(1)(2)
- ・スライド教材を見ながら、増えたり、減ったりした様子が分かるようにする。(1)
- ・学習意欲を高めたり、自信をもったりできるよう、簡単な操作で答えられるようにする。(1)(2)

過度の努力を要さない学習環境をつくることも
主体性や意欲を高めるために重要な視点です。



具体物を使った数の学習



学習用端末(iPad)と学習アプリを使った学習



自作スライド教材(PowerPoint)



使用した学習アプリ



・手だて等の評価:1人1台端末を活用することで、学習目標にせまることができたか

【◎ 手立てとして、よかったと評価できるところ、▲ 手立てとして、課題が残るところ】

- ◎学習用アプリを使って、簡単な操作で繰り返し答えられるようにすることで、学習を楽しみ、意欲的に取り組むことができた。
- ◎具体物での操作と、学習用アプリでの反復学習を組み合わせることで、足し算・引き算の基となる「数の構成」を理解し、答えを導き出すことができた。
- ◎児童の理解に合わせて作成したスライド教材を使用することで、数が増えたり、減ったりする変化を捉え、正しく答えることができた。